

Title	Layamon's Brut と Wace の Le Roman de Brut
Author(s)	福井, 三奈子
Citation	Osaka Literary Review. 10 P.51-P.77
Issue Date	1971-10-15
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/25711
DOI	10.18910/25711
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*

福井三奈子(秀加)

— はじめに —

イギリスにノルマン王朝が築かれ、プランタジネットの Henry II 世がイギリスの覇者として国を治めていた頃に、ノルマンの詩人 Wace は年代記 *Roman de Brut* 「ブリュ物語」(Ca.1155) を書いてそれをヘンリー II 世の後 Eleanor に献呈した。この Wace の列王記の中に現われるブリテンの王者達の中でアーサー王と彼を取巻く円卓の騎士の肖像はフランス文学では12世紀の詩人 Chrétien de Troyes (1135—90?) の官廷文学や、Marie de France (12世紀後半) の短詩の中に受継がれてゆき、roman courtois の題材となった。

それから凡そ50年後、*Roman de Brut* はまた、ウスタシャーの僧侶 Layamon が Early Middle English で書いた *Brut* (Ca.1205) の原典となったのである。そして Layamon の *Brut* も其の後の英文学に現われるアーサー王物語の発展に寄与することになる。

Layamon は Wace の *Brut* を自由訳して、物語の構成から叙述の順序迄殆んど其尽に Wace をうつし取った。

物語はイギリス建国伝説の王者 Brutus の曾祖父にあたる Eneas が新天地を求めてトロイを逃れる所から始まってブリトン人の Albion 定住、其の後国威を輝かせるアーサー王の偉業が情熱的に語られてゆき(アーサーに関する物語に Wace も Layamon も全体の三分の一を費している)、ブリトン最後の王 Cadwalader (689 A. D.) が国をサクソン王 Athelstan の統治にゆだねて島を離れ、その子孫がウェールズに戻って落着く所で話は終っている。

Wace の octosyllabic couplet 14866行 (Ivor Arnold 編) は Layamon では hemistichs の 32241行 (Francis Madden 編) になっている。Wace と比べて Layamon の詩行の長々しいのは彼が物語を進める時に登場人物の会話を沢山とり入れたり、Wace の叙述を更に詳しく説明したり、彼独自の挿話をつけ加えたりしているためである。

このワースとラーヤモンの Brut 物語を比べた時にラーヤモンの特徴として先づ挙げられて来た事は OE heroic poetry の伝統を色濃く受継いでいる彼の Englishness¹ である。ラーヤモンはワースを訳したのであるが、訳出にあたってラーヤモンの醸し出したアングロ・サクソンの英雄詩の雰囲気¹を強調するあまりに、彼が Brut に描いた世界は古代的であってワースの描き出したロマンス風の騎士の社会とは対蹠的であるときめたり、ラーヤモンひとりが Brut の中で残忍で野蛮な特徴を持っているかの様な評価を与えることには一考の余地があると思われる。

そこでこの小論は実際にワースとラーヤモンのテキストを並べて検討し、果して彼等の描いた Brut の世界は大層違ったものなのか、ワースはどの様にラーヤモンに受継がれていったのかを探ってみようとするものである。つまりラーヤモンがどの程度 archaic⁴ であり less sophisticated⁴ なのか調べたいと思う。それから両者を比較する事によって当然浮かび上って来るワースの特徴的なフランス風嗜好やラーヤモンのアングロ・サクソンの気質にも焦点をあててみたいのである。以下問題を5つの項に分けて話を進めよう。

第Ⅰは中世のロマンスに織込まれてくる女性との恋愛関係の描写や roman courtois で troubadour が語った woman-worship と courtesy がどの程度に Wace と Layamon に現われてくるかを調べ、

第Ⅱは Wace と Layamon の描く King Arthur と円卓の騎士達の肖像には果して大きな差異があるのだろうかを検討し、

第Ⅲは Layamon に対する一つの批評から彼の特徴といわれる ferocious-

ness について Wace と対比して考え、

第Ⅳは *Roman de Brut* を翻訳するにあたって Layamon がみせる Anglo-Saxon 気質から彼の Englishness の一つの特徴を明らかにし、第Ⅴは Layamon のイギリス人らしさと好対照をなす Wace のフランス的な嗜好を全篇を通じて考察する。それは courtly sentiment⁵ であるよりむしろ彼の Norman gaity であるようだ。その具体的特徴をテキストからとりあげる。

I

婦人に対する愛情や優しい心づかいを描く点では Layamon は Wace より多少ひかえ目でこそあれ、決してひけを取らない。我々はまづ女性への恋心の描写を、アーサーの父王ユーサーがコーンウォール公ゴロイスの妻イガーナに横恋慕する場面に認めることができる。(彼女は後にユーサーの子を宿しアーサー王を生む)

Ygerne . . .

Curteise esteit e bele e sage

E mult esteit de grant parage.

Li reis en ot oï parler

E mult l'aveit oi loer;

Ainz que nul semblant en feist,

Veire assez ainz qu'il la veïst,

L'out il cuveitee e amee,

Kar merveilles esteit loee.

Mult l'ad al mangier esgardee,

S'entente i ad tute turnee.

Se il mangout, se il beveil,

Se il parlout, se il taiseit,

Tutes eures de li pensot

E en travers la regardot,
 En regardant, li surriëit,
 E d'amur signe li faiseit.
 Par ses privez la saluot
 E ses presens li enveot,
 Mult li ad ris e mult clunied
 E maint semblant fait d'amistied
 Ygerne issi se conteneit
 Qu'el n'otriout ne desdisëit.

Wace *ll.* 8575—8596

þe king sende his sonde
 to Igærne þere hende.
 Gorlois eorles wif
 wifmone alre hendest.
 Ofte he hire lokede on
 & leitede mid eþene.
 ofte he his birles sende
 fron to hire borde.
 ofte he hire loh to
 & makede hire letes.
 and [heo] hine leofliche biheold
 ah inæt whær heo hine luuede.
 Næs þe king noht swa wis
 ne swa Ʒære witele.
 Ð imong his duƷeþe
 his þoht cuþe dernen.

Layamon *ll.* 18534—18549⁶

Uther は Gorlois に伴われて王の饗宴に列席した Igerne をみそめるのである。Wace のユーザーはイガーナを恋して食べる間も、飲む間も、話す間も、黙っている間も、彼女を想い、彼女を見詰めて微笑みかけ、愛の合図を送る。Layamon のユーザーも負けてはいない。彼は度々酌人を彼女の食卓へとつかわし、彼女を見詰めて笑いかける。彼は彼の心を隠すことが出来ない。ユーザーは遂にイガーナに恋ぐるいをして股肱の重臣の Ulfin に何とかしてくれなければ彼女恋しさの余りに死んでしまうなどと言う。

L'amur Ygerne m'ad suspris,
 Tut m'ad vencu, tut m'ad conquis,
 Ne puis aler, ne puis venir,
 Ne puis veillier, ne puis dormir,
 Ne puis lever, ne puis culchier,
 Ne puis beivre, ne puis mangier,
 Que d'Ygerne ne me suvienge!
 Mais jo ne sai cum jo la tienge.
 Morz sui se tu ne me conseilles.

W. ll. 8659—8667

Ulfin ræd me sumne ræd
 oðer ich beo ful raðe dæde.
 swa swiðe me longeð
 Ð ne mai i noht libben.
 after þere faire Ygærne

L. ll. 18718—18722

この様に Wace も Layamon もユーザーの恋情をロマンスの主人公の雰囲気ですら描き出している。また、ユーザーが王妃グイニヴァを大切にしていたことは、簡単な passage においてではあるが、Wace と Layamon

が異口同音に記している。

‘Artur l’ama mult e tint chiere;’ (W. I. 9656); ‘Arður heo nom to wife/& luuede heo wunder swiðe,’ (L. II. 22241—22242).

Woman-worship の精神や courtoisie (curteisie)⁷ は Layamon にはまた鮮明に現われず、Wace の所々に瞥見出事るのであるが、*Roman de Brut* で amour courtois を思わせる言葉は円卓の騎士の交わす冗談と、アーサーの戴冠式に参集する騎士の資格を述べた所の中に散見出来る程度である。⁸この言及を全篇の中からとりあげ殊更重視して、Wace の物語の特徴は courtly sentiment であると言い、Layamon の描いた *Brut* の世界を Wace から昔に溯った古い社会であるかの様に考えるのには疑問の余地があろう。

II

Wace の騎士達は Layamon の武將達の住む世界からかけ離れた、中世封建社会の住人であってロマンス風の騎士であると殊更に強調するのは危険なのである。

Wace のアーサー像は courtoisie を心得た王様であって確かに Layamon のアーサーと比べると洗練されている。礼節正しさ、生まれの良さ、勇気のあること、気前の良さに於て他の君主を凌駕しているのだが (II. 9030—9032)、彼はまた、強くて剛胆で勝ち誇っている自信満々の王者でもあるのだ。名声を愛し、名誉を愛し、ほまれの名を残さんと望む英雄である (II. 9021, 9025—9026)。

Les thecches Artur vus dirrai,
 Neient ne vus en mentirai;
 Chevaliers fu mult vertuus,
 Mult fu preisanz, mult gloriuz;
 Cuntre orguillus fu orguillus
 E cuntre humles dulz e pituz;

Forz e hardiz e conqueranz,
 Large dunere e despendanz;
 E se busuinnus le requist,
 S'aidier li pout, ne l'escundist.
 Mult ama preis, mult ama gloire,
 Mult volt ses faiz mettre en memoire,
 Servir se fist curteisement
 Si ce cuntint mult noblement.
 Tant cum il vesqui e regna
 Tuz autres princes surmunta
 De curteisie e de noblesce
 E de vertu e de lergesce.

W. ll. 9015—9032

Eugene Mason はアーサー像を次の様に現代語訳した：

He was a stout knight and a bold: a passing crafty captain,
 (Forz e hardiz e conqueranz, l. 9021,) …… He was one of Love's
 lovers; a lover also of glory; and his famous deeds are right fit
 to be kept in remembrance,⁹ (Mult ama preis, mult ama gloire, /
 Mult volt ses faiz mettre en memoire, ll. 9025—9026).

'preis' は戦による名声だけではなく、淑女を礼讓を以て愛する能力をも評
 価の中に含んでいる。¹⁰同様に 'conqueranz' も征服者として勝ち誇っている
 だけではなく、異性に対する自信満々の意味があるが、此処では女性への愛
 だけに 'preis', 'conqueranz' を解釈してよいだろうか。Mason は 'Mult
 ama preis,' を 'He was one of Love's lovers,' と訳したが私は 'アー
 サーは名声を大層愛した' と直訳して、この '名声' を愛する能力の評 価だ
 けではなく、むしろ戦う力を多分に合せて評価するものと考えたい。

Wace の Artur は *chanson de geste* に描かれている heroic age の英

雄の美德を具えている。彼のイメージはアングロ・サクソンの伝統的な英雄像を継承している Layamon の Arður とさしてかけ離れてはいない。何となれば英雄時代の hero の美德は広い世界に共通したものであるから。

Ða þe Arður wes king
 hærne nu seollic þing.
 he wes mete-custi
 ælche quike monne.
 cniht mid þan bezste
 wunder ane kene.
 he wes þan zungen for fader
 þan alden for frouer.
 and wið þan vnwise
 wunder ane sturnne.
 woh him wes wüder lað
 and þat rihte a leof.
 Ælc of his birlen
 & of his bur-þæinen.
 & his ber-cnihtes
 gold beren an honden.
 to ruggen and to bedde
 iscrud mid gode webbe.
 Nefde he neuere nænne coc
 Ð he nes keppe swide god.
 neuær nanes cnihtes swein
 þat he næs bald þein.
 Ðe king heold al his hired
 mid hæzere blise.

& mid swulche þinges
 he ouer-com alle kinges.
 mid ræhþere strengðe
 & mid riche-dome.
 swulche weoren his custes
 þat al uolc hit wuste.
 Nu wes Arður god king
 his hired hine lufede.

L. II. 19930—19961

Layamon は Wace の詩行 ‘Servir se fist curteisement / Si ce cuntint mult noblement.’ (II. 9027—28) を具体的にアーサーにはべる従者の様子を述べて説明し、翻訳しようと試みている様だ (L. II. 19942—19952)。Arður はまた, Germanic hero で, brave, daring, boast-uttering, boast-performing, hostage-hanging king¹¹ であるといわれるがこれは Layamon の Arður に限らない。Wace の Artur も又而り, fierce king¹² なのだ。

Wace の chevaliers はロマンス風の騎士というより, *Chanson de Roland* のシャルマーニュの12臣将の如くに, ‘Les vaillanz humes les meillurs, / Les plus hardiz cumbateürs,’ (W. II. 9865—9866) であって, 王に生死をゆだねて戦に明け暮れ, 目ざましい手柄をたてゝは太っ腹のアーサーから褒賞を授かる剛勇の武将達である。御婦人の愛を求めて武者修業に専念する騎士の姿は Wace の *Brut* に見られない。それらしい騎士の姿勢への言及はほんの数行である。

III

Layamon は僧職にありながら残忍な心を持っていたという批評がある。R. S. Loomis は特に彼の野蛮な一例としてアーサーが Yuletid efeast で宴席の順列優劣争いを起した張本人一族の男達の首をはねさせ, 女達の鼻

をそがせる¹³描写をとりあげている¹⁴。然しアーサーは ‘… wið þan vnwise/
wunder ane sturnne. ‘(II. 19938—39) なのだから味方同志でアーサー
王のクリスマスの饗宴に血を流す争いを起したおろか者の一族に厳しい罰
を与えるのは不自然ではない。Wace はこの紛争については特に何も記し
ていないからこれは Layamon の補足であろうが、この争いと懲罰のいき
さつは、この様なつまらぬいさかいが二度と起らぬために皆が平等に坐れ
る円卓をアーサーが採用するという話の導入部になって、円卓の謂が生彩
を帯びて印象づけられてくるのであるから、ここでは我々は Layamon の
残忍性を論ずるより物語作家としての彼の巧みさを買って然るべきかと思
う。Layamon だけが ferocious であるというのは片手落ちだ。このような
懲らしめは殊更彼が考え出したわけではないのだから。殺戮の残忍な場面
は Wace にも描かれている。例へばプルータスがイギリスの国統一に至る
過程に獅子奮迅のいくさをする時、Wace の描写は生々しく残酷である。

Li Greu esteient endormi;
Ainz que il fussent estormi,
Out par les très maint cop doné,
Maint puin, maint braz, maint pié copé,
Espandue mainte cervele
E perciee mainte büele.

W. II. 467—472

his horn he vastliche bleu.
Iherden hit Troÿnisce
& tuhten to þon Griccken.
heo heom aweihten
mid heora wæles igrure.
Ðar fluwen haueden on felde
fæiðe þer feollen.

moni hond moni fot
 þe hæp wæs þe wrse.

L. ll. 808—816

Brutus のひきいるトロイの軍勢は眠っているギリシャ軍に不意打をかけ、こぶしや腕や足を沢山ちょん切り、脳みそを飛び散らし、いたる所で腸を突きやぶる。この場合 Layamon はどうかというと、‘þar fluwen haueden on felde/・・・/moni hond moni fot’ と Wace を真似てはいるがそれ以上具体的に残忍な描写を続けず、OE 風 epic formulæ の ‘fæiðe þer feollen’ を使い、‘þe hæp wæs wrse.’ と切上げてしまっている。

Wace の円卓の騎士達も仲々 savage である。ローマの皇帝 Lucius のもとへ使者として迎られた Guerin, Boso, Gawain の3人の中でガーウェインは使者の役目も果さぬうち、皇帝に縁続きの Quintilain の言葉が気に喰わぬからと、いきなり彼を叩き切り3人があたふたと逃げ帰る話は Wace も Layamon も変らないが、Wace のガーウェインが「御免」とも断らずに馬に飛び乗るのに対して (W. ll. 11757—11760), Layamon のガーウェインは「我々を追って来られる勇敢なお方がおられても、私は容赦なく刀で叩き切りますぞ」と少くとも断りの捨てぜりふを残す (L. ll. 26465—26470)。果してどちらのガーウェインが野蛮であろう。

IV

Dorothy Everett は Layamon のイギリス人らしさを、彼が Wace のフランス風 *Brut* を訳した際にその拠り所とした伝統的な Old English の英詩の概念、古きものへの強い憧れを示した彼の詩作の方法に認めている。いくさの身ごしらえをするアーサー王のいでたちを語る Layamon の言葉から Everett は *Beowulf* を連想する。¹⁵ 確かに、Layamon の戦いの描写は古代英語で書かれた battle song の雰囲気や彷彿とさせる。Layamon がこの意味でイギリス的なのは言うまでもないが、此の項では、

Layamon が示すアングロ・サクソン気質を *Brut* に登場する戦士達の会話の中から Wace と対比して掲げようと思う。

ブルータス勢の勢いに押されて浮足立った Poitou 王 Goffer のひきいる軍勢にブルータスの重臣の一人 Corineus は ‘敵に後を見せるとは卑怯なり’ と大みえ切って呼びかけるのであるが、Wace の描くコリネウスの叩く大口と、Layamon の描くコリネウスの生真面目な説教風の詰問調とは面白い対照をなしている。

Vus fuiez trop vilainnement
 Ki fuiez pur mei sulement ;
 Ja estes vus plus d'un millier
 Si fuiez pur un chevalier.
 Ne savez cele part fuïr
 Que jo ne vus face murïr ;
 Mais riches conforz vus puet estre
 Que vus murrez od ceste destre
 Dunt jo ai maint bon cop duné
 E maint millier d'omes tué
 E maint gaiant par mi trenchié
 E en enfern maint enveié.
 E quatre e quatre, e treis e treis,
 Venez ça, ferez demaneis !

W. ll. 887—900

Goffar mid þire ferde
 wi wolt þu fleam makian.
 Ne miht þu na wiht so fleon
 3if þu us wlt heonne fleman.
 þu most swiþer fehten

er we heonne iwenden.

L. II. 1576—1581

‘私一人のために逃げるとはふらち千万……いや、だが御安心召されい。御前がた死ぬのは儂のやつけた御連れと一緒にだからな。何千人も殺して、大男の首をはねて地獄へ送り込んでやりましたぞ。さあ、三人つつでも四人つつでもかゝって来なされ。’

と Wace は皮肉たっぷりなのだ。Layamon の方は、‘ゴファーよ何故軍勢を引き連れて逃げるのだ、我々を此の地から追い払うつもりなら逃げてはならぬ。我々が退却するより先に貴殿はしっかり戦うべきですぞ。’と至極御尤なことを言ってお敵を呼び戻そうとするのである。Wace の物語を大体に於て内容を変えずに写し取っている Layamon なのであるが Wace がひとたびフランス風のからかいや、駄洒落や、軽口を叩き始めると Layamon は其の個所を削除するか、或いは彼独特の生真面目な精神で翻訳してしまう。

Layamon のこの特徴はローマ皇帝 Lucius からアーサーの恭順を強要する使節の到来に接して、善後策を講ずるために召集された騎士達の間にかされる会話にも認められる。

Quant Cadour dist en suzriant,
 Oiant le rei, ki ert avant :
 En grant crieme ai, dist il, esté,
 E mainte feiz en ai pensé,
 Que par oisdives e par pais
 Devenissent Bretun malveis.
 Kar oisdiv e atrait malvaistied
 E maint hume ad apereciéd.
 Uisdiv e met hume en peresce,
 Uisdiv e amenuse prüesce,

Uisdive esmuet les lecheries,
 Uisdive esprent lé drueries.
 Par lunc repos e par uisdive
 Est juvente tost ententive
 A gas, a deduit e a tables,
 E a altres geus deportables.
 Par lunc sujur e par repos
 Poüm nus perdre nostre los.
 Pose avum esté endormi,
 Mais Damnedeu, sue merci,
 Nus ad un petit resveilliez,
 Ki Romains ad encuragiez
 De chalengier nostre païs
 E les altres qu'avum cunquis.

W. ll. 10735—10758

Ða stod þer up Cador
 þe eorl swiðe riche ær.
 and þas word sæide
 bifore þan riche kinge.
 Ich þonkie mīe drihte
 þat scop þes dæies lihte.
 þisses dæies ibiden
 þa to hirede is iboʒen.
 and þissere tidinge
 þe icumen is to ure kīge.
 þat we ne þuruen na mare
 aswunden liggeren here.

For idelnesse is luðer
 on ælchere þeode.
 for idelnesse makeð mon
 his monscipe leose.
 yðelnesse makeð cnihte
 for-leosen his irihte.
 idelnesse græiðeð
 feole ueele craften.
 idelnesse makeð leosen
 feole þusend monnen.
 þurh eðeliche dede
 lute men wel spedeð.
 For 3are we habbeoð stille ileien
 ure wurðscipe is þa lasse.
 ah nu ic þokie drihtne
 þæ scop þas dazes lihte.
 þat Romanisce leodē
 sunden swa ræie.
 & heore beot makieð
 to cumen to ure burh3es.

L. II. 24899—24930

Cornwall の Cadour は戦が始まりそうでやれやれだとばかりの口調で… ‘暇があって平和ですと、我々は悪くなりますな。無為はろくなことにならない…’。と口を開く。Wace のカードー公が ‘Uisdive met hume en peresce, / Uisdive amenuse prüesce,’ / Uisdive esmuet les lecheries, / Uisdive espreat lé drueries.’ (II. 10743—46) と得意の repetition を始めると Layamon はその口調を取って ‘… idelnesse

makeð mon/his monscipe leose. /ydelnesse makeð cnihte/for-leosen
 his irihte. /idelnesse græiðeð/feole uecle craften. /idelnesse makeð
 leosen/feole þusend monnen. /þurh eðeliche dede/lute men wel
 rpedeð.' (ll. 24913—22) この様に真似ているが、彼は Wace の 'Quant
 Cador dist en suzriant' (カードーが笑いながら言った…) という言葉を
 訳さなかった。Layamon は重大な会議の討論をにこにこと冗談まじりに
 話す態度が納得出来なかったのか或いはそれは彼の生真面目な性格の好み
 に合わなかったのでもあろうか。

カードー伯に答える Wace の Gawain [Walwein] は、'殿、何卒そうお
 怒りになられますな、いくさの後の平和は宜しいものにございます。土地
 は美しくも豊かにもなります。まことに、巫山戯ますのも、御婦人との愛
 も結構なことで、恋人のため、愛を獲得するために騎士達は騎士道に励み
 ます。'と軽く応酬する。

Layamon のガーウェイン [Walwain] は真正面から怒ってカードーに
 反対し、平和は神聖なる神の創り給うた誰にも結構なもので、平和は善良
 な人間に善行をさせるのです、と真面目くさってカードーに喰ってかゝっ
 ている。

«Sire cuens, dist Walwein, par fei,
 De neient estes en effrei.
 Bone est la pais emprés la guerre,
 Plus bele e mielðre en est la terre;
 Mult sunt bones les gaberies
 E bones sunt les drueries.
 Pur amistié e pur amies
 Funt chevaliers chevaleries. »

W. ll. 10765—10772

Þat iherde Walwain

þe wes Ardures mæi,
 and wraððede hine wið Cador swide
 þa þas word kende.
 and þus andswærede
 Walwain þe sele.
 Cador þu ært a riche mon
 þine ræddes ne beod noht idon.
 for god is grið and god is frið
 þe freoliche þer haldeð wið.
 and godd sulf hit makede
 þurh his godd-cunde.
 for grið makeð godne mon
 gode workes wurchen.
 for alle monnen bið þa bet
 þat lond bið þa murgre.

L. ll. 24949—24964

Layamon の騎士達は優しい気持は持ち合わせていても冗談をいわない。
 Wace は此処ではロマンスの騎士の宮廷風な姿を隙間見せて呉れている。
 それに対して Layamon のガーウェインは説教臭い坊様のようだ。Cador
 と Gawain の軽快なフランス風の軽口の応酬は Layamon の苦手とする
 所である。二人の会話を大真面目な論争に変えてしまった。これは Layamon
 の職業がらというだけではなく彼の生来の生真面目なアングロ・サクソン
 気質が彼の文学にうつり伝わっているように我々は思う。

V

Layamon のアングロ・サクソン気質に対して Wace のフランス人的嗜好
 が見られるのは彼が当時親しんでいたアンジェヴェンの宮廷の模様をう
 つし入れたと思われるアーサー王の戴冠式の華やかな祝宴の様子である。

式の模様は Wace も Layamon も共にアーサー王宮廷の富と権勢を示す豪華絢爛さを以て描いている。豪華さという点だけを挙げれば、あまたの従者、給仕人の末に至る迄きらびやかに純金で装っている Layamon のアーサー宮廷が勝っているやも知れぬ。然し祝宴の酒盛りも果て、其の後の競技となると、Wace の描く宮廷の淑女は如何にもフランスの女性らしく生々しいあでやかさを現わして来る。彼女達は余興の競技者をみるために壁へ登り意中の人を見付けると秋波を送り、顔を振向ける (W. II. 10539—42)。Layamon の貴婦人は Wace の淑女達よりもおとなしい。彼女達は壁によりかゝって競技の面々を眺めるのである (L. II. 24713—24720)。

さあそれからの余興となると、Wace の雄弁はにわかに活気を帯びて来る。彼はフランス風の賑やかで華やかな情景を満喫させてくれる。宮廷には軽業師や、歌い手、楽師、勝負師が集まり、武勲詩や恋のうたや、手回し琴弾きの唄や、評判の詩やハープやフリユート伴奏のうたなどが聞かれる。堅琴、太鼓、笛、管絃楽、七絃琴、一絃琴、ティンパニー、トランペットと楽器の賑やかな音色の中にダイスとテーブルを持って来させている声も混じる。喧嘩をしたり叫んだり、‘お前はごま化したらう、外へ投げろ、掌を動かして骰子を振れ！…’ 等と聞こえて来る。沢山着込んでいた者が身ぐるみはがれてゆく情景も見られる。

Quant li reis leva del mangier,

Alez sunt tuit esbanier;

De la cité es chans eissirent,

A plusurs gieus se departirent;

.....

Les dames sur les murs muntoent

Pur esgarder cels ki juoent;

Ki ami aveit en la place

Tost li turnot l'oil e la face.

Mult out a la curt juleürs,
 Chanteürs, estrumenteürs ;
 Mult peüssiez oir chançuns,
 Rotruenges e novels suns,
 Vieleüres, lais de notes,
 Lais de vieles, lais de rotes,
 Lais de harpes, lais de frestels,
 Lires, tympes e chalemels,
 Symphonies, psalteriuns,
 Monacordes, timbes, coruns.
 Assez i out tresgeteürs,
 Joeresses e juleürs ;
 Li un dient contes e fables,
 Alquant demandent dez e tables.

. . . .

Assez suvent noisent e crient ;
 Li un as altres suvent dient :
 “Vus me boisiez, defors getez,
 Crollez la main, hochez les dez !
 Jo l’envi avant vostre get !
 Querez deniers, mettez, jo met !”
 Tels i puet aseoir vestuz
 Ki al partir s’en lieve nuz.

W. ll. 10521—10524, 10539—10556, 10581—10588

Wace の賑やかさに比べて Layamon の余興の描写は次のようである。彼は苦々しい気持で Wace の騒騒しさを削ったのであろうか。彼の興味は専ら Arður にかしづく廷臣達の群像と競技の晴れの勝者が、アーサーより褒賞を授かることである。

Ða þe king iʒetē hafde
 and al his mon-weorede.
 þa buʒen ut of burhʒe
 þeines swiðe balde.
 alle þa kinges
 and heore hereþringes.
 alle þa biscopes
 and alle þa clærckes.
 alle þa eorles
 and alle þa beornes.
 alle þa þeines
 alle þa sweines.
 feire iscrudde
 helde ʒeond felde.

L. *ll.* 24681—24694

Monianes kunnes gomen
 þer heo gunnen driuen.
 & wha swa mihte iwinne
 wurðscipe of his gomene.
 hine me ladde mid songe
 at-forē þan leod-kinge.
 and þe kig for his gomene
 ʒæf him ʒeuen gode.
 Alle þa quene
 þe icumen weoren þere.
 and alle þa lafdies
 leoneden ʒeond walles.

to bihalden þa duʒeðen
 and þat folc plæie.
 Ðis ilæste þreo dæʒes
 swulc gomes & swulc plæʒes.
 Ða a þā ueorðe dæie
 þe king gon to spekene.
 and aʒæf his gode cnihten
 al heorere rihten.
 he ʒef feoluer he ʒæf gold
 he ʒef hors he ʒef lond.
 castles & claðes eke
 his monnen he iquende.
 þer wes moni bald Brut
 biuoren Arðure.

L. II. 24705—24730

饗宴がおひらきになるとアーサー王は持前の気前の良い寛大さを発揮して賓客に贈物をする。再び Wace の筆はとゞまる所を知らぬ程滑らかになり、得意の repetition でアーサー王の引出物を列挙する。

Treis jurs dura la feste issi.
 Quant vint al quart, al mecredi,
 Li reis ses bachelers feufa,
 Enurs delivres devisa;
 Lur servises a cels rendi
 Ki pur terres l'ourent servi;
 Burcs duna e chasteleries
 E evesquiez e abeies.
 A cels ki d'altre terre esteient,

Ki pur amur al rei veneient.
 Duna cupes, duna destriers,
 Duna de ses aveirs plus chiers.
 Duna deduiz, duna joiels,
 Duna levriers, duna oisels,
 Duna peliçuns, duna dras,
 Duna cupes, duna hanas,
 Duna palies, duna anels,
 Duna blialz, duna mantels,
 Duna lances, duna espees,
 Duna saietes barbelees.
 Duna cuivres, duna escuz,
 Ars e espiez bien esmoluz,
 Duna lieparz e duna urs,
 Seles, lorains e chaceürs.
 Duna haubercs, duna destriers,
 Duna helmes, duna deniers,
 Duna argent e duna or,
 Duna le mielz de sun tresor.
 N'i out hume qui rien valsist
 Qui d'altre terre a lui venist
 Cui li reis ne dunast tel dun
 Qui enur fust a tel barun.

W. II. 10589—10620

祝宴の4日目、Artur は騎士見習の従者に恩賞を与え官職封を分かち、領地を司って彼に仕えた者には城市や城を与え、司教区や修道院を与えた。外国から敬意を表して王のもとに参じた面々には盃や軍馬やとアーサーの高価な財宝を与え彼等に満足と喜びを与えるのであった。贈物の品目は、グレ

ーハウンドあり、鳥あり、毛皮裏付き外套、衣服、大盃、高台付酒盃、上衣、指輪、チュニック、マント、槍、刀、矢、逆刺、真鍮、三角楯、弓、研ぎすました矛、レオパード、くま、段梯子、甲冑、房付鞭、鎖かたびら、馬、かぶと、デナリウス銀貨、銀、金等々であった。大層なもてなしである。

Layamon と比べてみよう。彼はもう Wace に従ってゆけない。彼は口調も構文も其尽に 'he 3ef seoluer he 3æf gold' (L. l. 24725) [cf. 'Duna argent e duna or,' (W. l. 10615)] と Wace を写し始めるが、Arður は銀や金を与え、馬や土地を与え、城や衣服も与え彼の臣下を喜ばせた (ll. 24725—24728)。と、このあたりでぶつ切り Wace のお喋りを削除してしまう。戴冠式の豪華な Arður 官廷の雰囲気は終幕に近付くと Wace の賑々しさに比べて急に貧弱にみえてくる。が然し Layamon は賑やかな管絃や悪巫山戯や騒々しい官廷や止まる所を知らぬ有様の饒舌はアーサー王と廷臣達の威厳を傷つけるとでも考えて、敢て Wace の賑やかさを抹殺した模様である。我々は此処に Wace と Layamon の歴然とした相違を認め得る。

Wace のこの際限なしのお喋りは極めてフランス的な特徴と言えるであろう。武勲詩の *Chanson de Roland* にも既にそれは認められるし、中世随一の詩人ヴィヨンや、ルネッサンスの華、ラブレーの「ガルガンチュア・パンタグリュエル物語」にも顕著な 'verbiage' の一面である。つまり、*Roman de Brut* に於てみられる極立った Wace のフランス人的嗜好は騎士道華やかな世界に具現される *courtoisie* ではなくて、それは、いずれは生真面目で沈鬱なアングロ・サクソンの国民性を変化させ、Merry England¹⁶ の出現に影響を与えることになる Norman gait¹⁷ なのである。

— 結 語 —

我々は以上五項目に分けてワースとラーヤモンのテキストを対比させて来た。その結果、Brut の世界が双方共多分に heroic age の伝統に則とっ

た英雄時代の社会である事に気付く。ワースとラーヤモンの描く王侯の肖像は英雄時代に広く共通していた、いくさ人の社会倫理、美德を具えているから、彼等の英雄のイメージは一致するのである。ワースがロマンスの洗練された騎士の住む社会を *Roman de Brut* に描き、ラーヤモンは OE poetry に見られるような古いアングロ・サクソン風の世界に住む粗野な武將の社会を彼の *Brut* に創り出していると考えるのは妥当ではない。野蛮な心を持つと言われるラーヤモンの ferocity はラーヤモンひとりに限らずワースにも又認め得るものである。

貴婦人の愛を得んために騎士道に励むという esprit courtois の woman-worship の精神はワースの中に認められるのだが *Roman de Brut* の全詩行を眺める時、その数行の言及を以てワースの特徴は courtly sentiment であると言える程重要視出来るものではない。¹⁸

女性に対する愛情や優しさを描く点ではラーヤモンは控目でこそあれワースに習って恋愛描写を行なっている。

ラーヤモンがワースより more archaic であって less sophisticated であったと言う時、それが OE poetry の伝統を強く受継いだ言語から受ける印象であるのは言う迄もないが、又一面それはラーヤモンの生真面目で冗談や駄洒落を言わぬアングロ・サクソン気質にも由来するものである。less sophisticated なラーヤモンの世界とは、即ち軽味のある、巫山戯た、賑やかなノルマン風のワースの気心を写し取れなかった所にあると私は思うのである。

日本英文学会第42回大会に於て 昭和45年10月31日発表

注

1 Dorothy Everett, *Essays on Middle English Literature* (Oxford, 1955), pp. 35—37.

also see: R. S. Loomis, "Layamon's Brut," *Arthurian Literature*

in the Middle Ages (Oxford, 1961), pp.110—111.

W. H. Schofield, *English Literature from the Norman Conquest to Chaucer*, reprint (New York, 1969), pp.351—352.

- 2 清水あや, 「アーサー王伝説研究」, 研究社, 1967, p. 34.
- 3 Loomis, *Op. cit.*, pp.107—108.
- 4 *Selections from Layamon's Brut*, preface by C. S. Lewis, ed. by G. L. Brook (Oxford, 1963), p. viii.
- 5 Schofield, p. 351.
- 6 Wace の作品の引用は *Le Roman de Brut de Wace*, ed. by Ivor Arnold (Paris, 1934) に拠り, Layamon の作品の引用は *Layamon's Brut*, ed. Sir Frederic Madden K. H. (London, 1847) に拠った。Wace よりの引用には W., Layamon よりは L. の略記号をしるし, 引用文は各 lines を示した。
- 7 'curteis' は既に武勲詩 *Chanson de Roland* に見られる。'Oliver li proz e li curteis,' の如くに使われていた。'curteisie' が現われるのは12世紀頃である。アーサー宮廷の礼節正しき有様を述べるこの言葉は Wace にはまだ3回しか出て来ない。
- 8 see: Wace *ll.*, 10770—10772 (66頁の引用文参照)

当時のアーサー宮廷の騎士達は三たび戦って腕をためし騎士として立派な資格を証明出来なければ女性の愛は得られなかった。このことは Wace も Layamon もしるしている。W. *ll.* 10511—10520, L. *ll.* 24661—24680. Wace が 'Ja peüst avoir druerie/Ne curteise dame a amie,' (*ll.* 10513—14) と必ずしも結婚を対象としない 'druerie' を使っているのに対し Layamon は腕をためした 'cniht' でなければ高貴な婦人は 'lauerd' に選ばなかったし, 'hif oht-scipen icudde' (*l.* 24671), 彼の勇敢さを明らかにした騎士だけが花嫁を求めることが出来たのだと言う。この場合 Wace も Layamon も女性の愛を獲得するた

めの騎士の資格を問題にしている。Layamon は女性への礼讓を描かないわけではない。然し両者の間には微妙な違いが認められる。Wace の詩は amour courtois を思わせる。Layamon は Wace の詩行をうつし取ってはいるが騎士と婦人の関係を結婚を対象としたものに翻訳している。

- 9 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles*, Introduction by Gwyn Jones, trans. by Eugene Mason, (Everyman's Library, 1966) p. 43.
- 10 'pris' Tobler-Lommatzsch, *Altfranzösisches Wörterbuch*, 参照。然しながら Mason の現代語自由訳から 'one of Love's lovers' という phrase をとってきて、それがあたかも Wace のアーサーのイメージであるかのように紹介している C. S. Lewis には承服できかねる。see: *Selections from Layamon's Brut*, ed. by G. L. Brook, introduction by C. S. Lewis, (Oxford, 1963), p. ix.
- 11 Gwyn Jones, p. xii.
- 12 see: boast-uttering (W. ll. 9317—9336) (L. ll. 19980—19995, 20102—200119)
 boast-performing (W. ll. 9337—9356) (L. ll. 20070—20081., 20120—20145)
 hostage-hanging (W. ll. 9261—9262) (L. ll. 21101—21109)
- 13 L. ll. 22827—22846.
- 14 Loomis, p. 107. 裏切者の耳や鼻をそぎ落とし、女達を宙吊りにする話は既に古く、「オデュッセイア」に出ている (X X II)。
- 15 Everett, pp. 35—36.
- 16 アングロ・サクソン気質を変化させた Merry England 出現の背景は厨川文夫博士の「中世の英文学と英語」, 研究社, 1962, pp. 149—156 に詳解されている。

17 アーサーの戴冠式を控えて、活気あふれる Caerleon の準備にせわしく賑やかな描写もその一つの特徴と言えよう。

18 Wace は ‘courtoisie’ を学びつゝある社会に語りかけているのだと Gwyn Jones は言う。 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles*, p. viii. *Brut* の中で Wace の ‘amorous sentiment’ を過大視することは出来ない。see: Charles Foulon, “Wace” in *Arthurian Literature in the Middle Ages*, p. 101.

更に, *La Partie Arthurienne du Roman de Brut*, eds. I. D. O. Arnold et M. M. Pelan (Paris, 1962) の Introduction には、理想の王として Wace が抽いた Arthur と Charlemagne のイメージとの類似が指適されている。see: pp. 30—31.